

社会福祉のN I E授業実践の経年変化比較

○ 中国短期大学 松井 圭三 (002473)

藤田 了 (大阪国際大学・009058)、今井 慶宗 (関西女子短期大学・006951)

キーワード：スキルアップ N I E 新聞

1. 研究目的

2023年度も本学保育学科1年生の科目「社会福祉」においてN I E実践を行った。山陽新聞社と連携し、全15回の授業のうち同新聞社の記者が3回授業を行った。それら3回のテーマは、第1回「N I Eとは何か」、「新聞とはなにか」、「新聞の読み方、楽しみ方」、第2回「聞く力」、「取材をするにはなにが必要か」等、第3回「記事の書き方」、「レポートの書き方」等である。残りの12回の授業では、社会福祉の各分野すなわち高齢者福祉、障がい者福祉、子ども家庭福祉、母子保健福祉、公的扶助等について山陽新聞を丸ごと使用し、学生が各テーマの新聞記事を自由に探し、スクラップ・精読し、語句・法律・制度を調べ、さらに記事を読んだ感想をワークシートに記入した。学生にスクラップ帳を配布し、自身で選んだ記事を貼り付け要約・感想を記入する課題を出した。これらは2021年度に実施した内容とほぼ同じである。

今回もこの科目の終了時に「N I E実践後の効果アンケート（社会福祉）」を行い、集計・分析した。このアンケート結果を集計し、2021年7月21日に実施した「社会福祉科目のアンケート」を比較し、経年変化があるか分析するとともに、N I E実践の効果や教育上の指導課題について考察する。

2. 研究の視点および方法

対象は、保育学科1年生科目「社会福祉」履修登録の学生であり、回答数は70人であった。調査日は2023年7月23日である。N I E実践の効果や、新聞に対する意識調査を行った。効果測定については、多肢選択式による量的把握だけではなく、理由についての自由記述による内容把握も行った。

3. 倫理的配慮

講座の各回終了後のアンケートは、集計し匿名化し研究上使用することを示して回答を得ている。人名は出さず、地名もアルファベットにしている。一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程等にとり、研究を実施している。COI（利益相反）はない。発表内容について、共同研究者各人の同意を得ている。

4. 研究結果

設問1では、「Ⅰ よく役に立った」「Ⅱ 役に立った」「Ⅲ 少しは役に立った」の合計は86.9%であり、前回比11.0ポイント増である。「Ⅴ あまり役に立たなかった」「Ⅵ 役に立たなかった」「Ⅶ 全く役に立たなかった」の合計は1.4%で、前回比6.2ポイント減である。設問2では「Ⅰ よく役に立った」「Ⅱ 役に立った」「Ⅲ 少しは役に立った」の合計が73.9%である一方、「Ⅳ どちらともいえない」が24.6%であった。設問3では「Ⅰ よく役に立った」「Ⅱ 役に立った」「Ⅲ 少しは役に立った」の合計が88.4%である。「Ⅳ どちらともいえない」は11.6%である。「Ⅴ あまり役に立たなかった」「Ⅵ 役に立たなかった」「Ⅶ 全く役に立たなかった」という回答はなかった。設問4は「Ⅰ よく役に立った」「Ⅱ 役に立った」「Ⅲ 少しは役に立った」の合計が81.4%であるが、前回2021年の類似質問に比しこれら合計が6.9ポイント低下している。一方で「Ⅳ どちらともいえない」という回答が7.6ポイント増加している。「Ⅴ あまり役に立たなかった」「Ⅵ 役に立たなかった」「Ⅶ 全く役に立たなかった」の合計は1.4%で前回比1.4ポイント減である。設問5では「Ⅰ よく役に立った」「Ⅱ 役に立った」「Ⅲ 少しは役に立った」の合計が79.7%であった。この3つの回答については前回比で1.2ポイント減であった。「Ⅳ どちらともいえない」は前回比1.9ポイント増、「Ⅴ あまり役に立たなかった」「Ⅵ 役に立たなかった」「Ⅶ 全く役に立たなかった」の合計は0.8ポイント減であった。前回からの変動はほとんど見られない。設問6では「Ⅰ よく読むようになった」「Ⅱ 少しは読むようになった」「Ⅲ もともとよく読んでいる」の合計が今回は45.7%と半数を割っている。前回比ではこの3つの選択肢の合計が5.9ポイント減となっている。この設問では「Ⅳ 変わらない」は今回40.0%であり16.9ポイント増となっている。その一方で「Ⅴ ほとんど読まない」「Ⅵ 読まない」「Ⅶ 以前より読まなくなった」の合計は14.2%で前回比11.1ポイント減である。

5. 考察

前回の調査後においてあげた課題のうち今回の調査と直接に関係するのは「1. このアンケート調査結果をもとに授業の展開を再検討しなければならない。」「2. 事例のビデオ視聴との関わりについてアンケート調査が不十分であったので、次回の調査で再検討が必要である。」「3. 新聞を学生に読ませるため何が必要か、もう一度再検討が必要である。」の諸点である。

「3」については社会全体で新聞購読率の低下という現象がある中で、この授業の実施が抑止効果があることはみられるが、授業終了後も継続して読ませるといった点についてはさらなる検証が必要と考えられる。